

令和6年度学校評価アンケート結果のまとめ

滋賀県立虎姫高等学校

分析	高い評価（A評価）		課題のある部分	
教 職 員	・ 生徒の希望進路が実現するよう、きめ細かい面談指導や適切な情報提供に努めている。 ・ 学校生活の安全を図り、事故、怪我、病気等には迅速・適切に対応している。		・ 教科指導や LHR などと連携し、図書館の積極的活用を進めている。 ・ 日常の掃除や大掃除等の活動により、生徒の美化意識を育てている。 ・ 学校行事や授業で、ごみの減量化や環境に配慮した消費のあり方などを考える機会を与えている。 ・ IBDPの理念や評価方法が、教員の教科指導等の改善に前向きな影響をもたらしている。	
	特 色	・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業および国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）の実施 ・ 定期的な面談週間の実施による面談の充実と個別指導を含む学習指導 ・ 全校的な探究的な授業への改善の取り組み ・ 高大連携の充実 ・ 生徒主体の学校行事の運営	課 題	・ BYOD環境下での図書館利用の在り方の検討 ・ 美化意識の涵養、消費の在り方について学ぶ機会の創出 ・ IBDPの研究・協力体制の強化
保 護 者・関 係 者	・ 虎姫高校は、他の高校にはないような魅力的な教育活動に取り組んでいると思う。 ・ 虎姫高校は、ホームページや学校新聞などにより、学校の様子をわかりやすく紹介している。 ・ 虎姫高校は、生徒の心身の健全な発育のため、適切に部活動を行っている。 ・ 虎姫高校の教職員は、電話連絡や訪問の際の対応が丁寧で相談しやすい。 ・ 虎姫高校は、PTAと協力し、広報誌の発行や学園祭の活性化などに取り組んでいる。 ・ 虎姫高校は、学校生活が充実するよう生徒会活動や学校行事など、生き生きと生活できる学校づくりに努めている。 ・ 虎姫高校は、身だしなみや遅刻指導など、基本的な生活習慣の指導に努めている。 ・ 虎姫高校は、サマーセミナーや各種講演会や学問祭など、学習意欲を高める行事が充実している。		・ 虎姫高校は、家庭での学習習慣の確立のため、適切な学習課題を課している。 ・ 虎姫高校は、進路希望が実現するよう、きめ細かい面談や進路情報の提供に努めている。 ・ 虎姫高校は、学校生活の安全を図り、事故、怪我、病気等には迅速・適切に対応している。 ・ 虎姫高校は、安心して学校生活を送れるよう、いじめの防止など人権を大切にする教育に努めている。 ・ 虎姫高校は、施設や設備など学習環境の改善・充実に努めている。	

生 徒	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導が大切にされ、丁寧で熱心な授業が行われている。 ・LHR・講演会・サマーセミナーなど、将来の職業や働く意義などについて考える機会が多い。 ・希望者補習や進学補習、補充講座・休日学習会など学ぶための環境が多く提供されている。 ・個人面談や進路相談が丁寧に行われている。 ・文化祭、体育祭等の行事が、生徒会により自主的に運営されている。 ・仲間を大切にし、明るく生き生きとした学校生活を送っている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高度で発展的な内容も取り入れられ、知的な興味を抱かせる授業が多い。 ・SSHや高大連携事業は、生徒の学習意欲や進路意識を高め、学力向上に役立っている。 ・国際バカロレア教育により生徒に多様な学びの選択肢を提供している。 ・「究理Ⅰ」や「究理Ⅱ」における探究活動が主体的に学ぼうとする意欲を高めている。 ・学校全体で校内美化に努め、ゴミの分別や減量化などが積極的に行われている。
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として生徒・保護者等関係者・教職員による評価は、項目により多少の差はあるもののおおむね高く、教職員が学校の教育目標を常に意識しながら教育活動にあたっていること、またそれに基づく本校の取り組みが一定理解されていることが高評価につながっていると思われる。 ・本校の特色であるSSHやIBに関する項目では、教員の自己評価、生徒、保護者/学校関係者とも、期待したほどの評価は得られなかった。特にIBについては、評価が高かったSSH事業に比べて教員の自己評価が低く、IB教育の成果を全校的に波及させることが求められる。 ・今年度より全校体制で取り組んでいる探究活動についてはおおむね評価が高かったが、生徒の評価が若干低い結果となった。各種コンテストや発表会で活躍する生徒が多数出てきた一方で、まだまだ探究活動が学校全体のものになっていないことがうかがえる。今後、探究活動の成果をどう整理し、発信していくかが課題である。 ・共通して評価が高かったのは、学校行事や充実した個人面談・相談体制に係る項目で、結果的に明るく生き生きとした学校生活を送っている生徒の割合の高さにつながっているものと思われる。 ・校内美化を含めて、身の回りを美しくする姿勢や学校の設備については、教員・保護者・生徒とも共通して評価が低い項目となっており、学校は引き続き適切な施設管理に取り組み、美化意識の向上に向け基本的な生活習慣の改善と合わせて学校と家庭が協力して取り組んでいく必要がある。 	